

▶パッチ



ロゴを刷新。ブランド名である"ETERNAL"に一眼で気づいてもらうこと、また直訳すると"永遠"であり、その文字通りデニムのタイムレスな魅力をダイレクトにお客様へ伝えたい気持ちを含めて、シンプルにロゴを刻印しました。岡山デニムとして日本製へのこだわりを貫いてきたブランドの意思をレザーパッチにも込めました。北海道蝦夷地の鹿革を使用。植物タンニンなめし。鹿革はしなやかで柔軟、軽くて通気性に優れています。傷つきにくく水にも強く丈夫でありながら、上質感あるシボが特長です。革本来の傷や黒点などをあえて除けずそのまま裁断し、使用しています。生物への感謝と環境への配慮、そしてデニムと同じ個性の楽しみを味わっていたきたい思いからデニムパッチをリニューアルしました。

▶ウエストバンドにボタン付き



フロントとバック

1920年代から30年代にかけてのサスペンダーボタンにベルトループが取り付けられた時代から1937年頃にサスペンダーボタンがなくなり、ベルトループだけの今の状態になるまでのそのハイブリッドなデザインがなんとも魅力的である。現代では無駄であるこのディテールもだからこそ外形的に面白く感じ、2WAY使いも現代的に感じるこのクラシックなデザインをETERNAL流に表現したかった。またこのディテールも永久のクラシックだなと感じる。

▶フロントはボタンフライ



ボタンフライの仕様でトップボタンは4個。この頃の年代は3個が主流だったが、30年代後半のサスペンダーボタンがなくなる手前で4個に増えた時代のストーリーを踏襲。ベルトループの時代に入って搭載されたトップボタン脇に入る"Vステッチ"をあえて取り入れている。使いやすさと現代にも生かされ継承されているディテールを取り入れ、ETERNALらしいこだわりと解釈で作っている。

▶ボタンフライの終わり部分は、リベット剥き出し



リベットが開発された初期から股下に採用されている剥き出しのリベット。クラシックの代表的なディテールを踏襲。

- ▶シンチバック付き
- ▶センターループは乗せる



腰回りを絞るシンチというディテール。これもデニムのクラシックならではの魅力。古き良き時代を表現するためにあえて簡素なバックルを使用している。現代ではほとんど意味をなさなくなったこのディテールをあえて切り取って履いてもらうのも楽しみの1つである。これを"カットバックル"と呼ぶ。

また、スリムタイプと違い、忠実にセンターにベルトループが置かれている。

- ▶バックポケットのリベットを表に出す
- ▶バックポケットを大きく



隠しリベットになる以前の剥き出しのリベット補強のディテール。ダブルステッチが真っ直ぐに綺麗に入っているのも美しく魅力的である。

ワイドなシルエットに対して、ポケットも大きくしている。全体のおおらかさとクラシックのかわいらしさが表現されている。上質なヌメ革のロングウォレットをポケットに差し込んで歩いてもカッコよく、様になるポケットサイズ。

- ▶バックポケット内側にスレーキを貼り合わせ



長く履いてもらいたい、大きなポケットにガンガン物を放り込んで大丈夫なように、ポケット下部にスレーキを当て布して補強している。

- ▶スタンプ



ポケットにスタンプがつく

岡山児島ブランドのサインとしての意味や信用としてスレーキにスタンプを押しています。また外国の方々に購入してもらい着用してもらう機会の中でも"ETERNAL"の歴史や魅力をほんの少しでも知ってもらいたい感じてもらいたい意思の表れです。

▶セルビッチ



希少な旧式シャトル織機で織り上げた14.5ozオリジナルセルビッチデニムを採用。ザラ感のある表情を持ち、防縮・毛焼き加工を行わずに、ヴィンテージ特有の風合いを引き出しています。染色はローブ染めを通常の倍、20回以上行い、穿きこむほどに深みあるタテ落ちが楽しめます。